

平成29年度

スマートフォン等の利用に関する 実態調査の結果について

1 調査の目的

児童生徒のスマートフォン等の所持や利用の状況、トラブル等の実態などを把握することで、児童生徒への指導や保護者への啓発等、今後の取組に資する。

2 調査の実施時期

平成29年12月（平成26年から毎年12月に実施）

3 調査の概要

- ・ 小学校4年生から高校3年生までの児童生徒を対象
- ・ 県内の小学校33校、中学校32校、高等学校17校を抽出し、抽出された学校において、各学年から1クラスを選び実施

〈調査への回答者数〉

小学校 2,838人（抽出率5.6%）

中学校 2,942人（抽出率5.9%）

高等学校 1,917人（抽出率5.6%）

合計 7,697人（抽出率5.7%）

4 備考

本報告書において、

- ・ スマホ等とは、スマホ（スマートフォン）または携帯（従来型の携帯電話）を表す。
- ・ スマホ、パソコン、ゲーム機等ネット接続が可能な機器から利用できる、メール、ライン、ツイッター、オンラインゲーム等の総称を「コミュニケーションサービス」と表す。
- ・ 小学生とは、小学校4年生から小学校6年生までを指す。

平成30年4月

岡山県教育庁義務教育課
生徒指導推進室

(1) スマホ等の利用状況について

〈 概要 〉

① スマホ等の所持率

自分のスマホ等を持っている割合は、小学生32.1%、中学生58.4%、高校生98.1%であり、平成26年度と比べて、小学生と高校生は同程度であったが、中学生で大幅に増加している。

② 長時間利用の割合

スマホ・ゲーム機等を利用する児童生徒のうち、平日1日に平均3時間以上利用している割合は、小学生17.3%、中学生25.1%、高校生36.3%であり、平成26年度と比べて、高校生は減少しているが、小中学生は増加している。

③ 部活動所属別の利用時間

中・高校生ともに部活動に所属していない生徒の方が所属している生徒に比べ、長時間利用(3時間以上)の割合が10～17ポイント高くなっている。

④ ネット等の利用率

普段、インターネット(以下「ネット」という。)やコミュニケーションサービスを利用している割合は、小学生55.6%、中学生81.4%、高校生95.9%であり、平成26年度と比べて中学生が増加している。
※小(ゲーム:77.2%)、中(ライン:84.3%)、高(ライン:96.6%)が最も利用割合が高い。

⑤ 日常生活への影響

スマホ、ネット、ゲーム機などの利用のために「日常生活で減った時間がある」と答えた割合は、小学生24.2%、中学生40.7%、高校生48.1%であり、平成26年度と比べて、すべての校種で増加している。※自分専用のスマホ等を所持している方が、その割合は高い。

⑥ 情報機器端末の学習利用

全ての校種において、スマホ等の情報機器端末が広く学習にも利用されている。

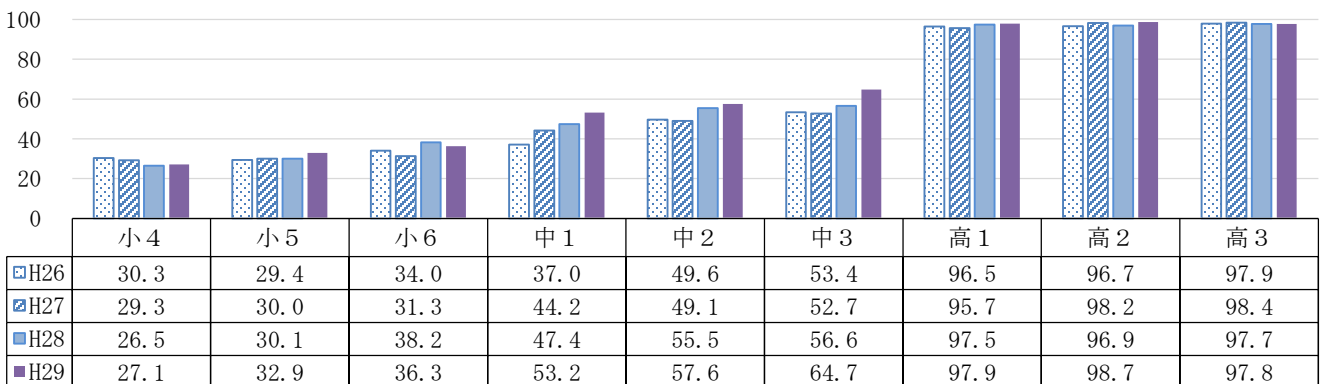
⑦ ネット依存傾向

ネット依存の傾向について、「高い」と判定された児童生徒の割合は、小学生0.7%、中学生2.8%、高校生3.4%となっている。また、平成28年度と比べて、すべての校種で依存傾向の「低い」児童生徒の割合が減少し、「中程度」の割合が増加している。

① 自分のスマホ等を持っているか

◆「自分専用のスマホ・携帯を持っている」と回答した割合(%)

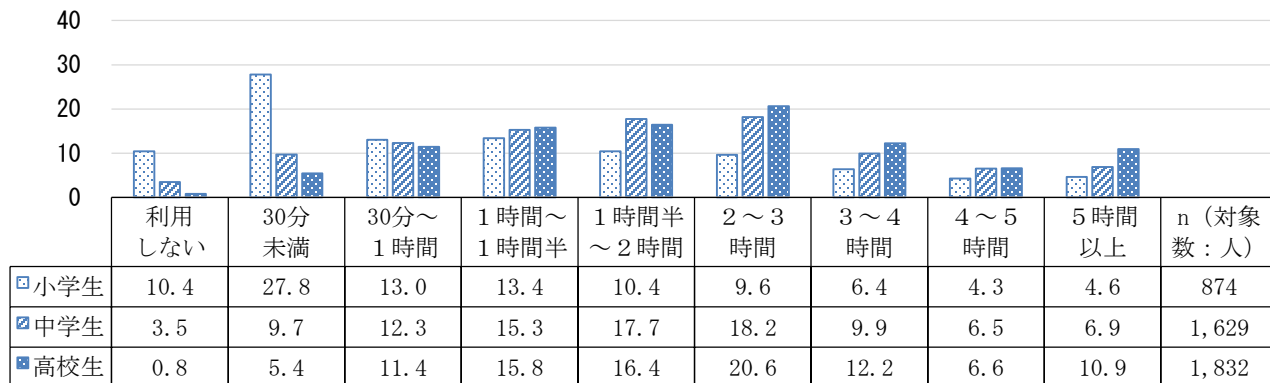
<本調査の回答者全員が対象>



	小学生	中学生	高校生
H26	31.2	46.7	97.0
H27	30.3	48.6	97.4
H28	31.6	53.2	97.4
H29	32.1	58.4	98.1

② 平日1日当たり、どれくらいスマホ等を利用しているか

◆ 平日1日当たりのスマホ等の利用時間別割合(%) <自分専用のスマホ・携帯を持っている児童生徒の回答>



※ 例えば、2～3時間は、2時間以上3時間未満を表す。

◆ スマホ・携帯、パソコン、タブレット、携帯音楽プレーヤー、ゲーム機等、すべての情報機器端末の利用時間の合計を「平日1日に3時間以上」と回答した割合(%)

<本調査の回答者全員が対象>

	H26	H27	H28	H29	対H26年増減	n(H29対象数:人)
小学生	15.8	13.9	15.5	17.3	+1.5	2,838
中学生	25.0	23.9	22.5	25.1	+0.1	2,942
高校生	39.0	33.8	34.6	36.3	-2.7	1,917

<参考>利用時間の全国比較

平日1日当たり2時間以上、スマホやゲーム等を利用する児童生徒の割合(%)

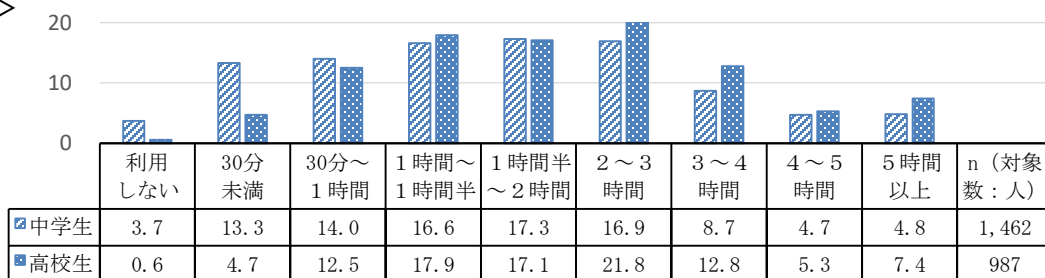
	岡山県	全国
小学生	32.1	33.4
中学生	44.8	56.7
高校生	59.0	74.2

全国値は、青少年のインターネット利用環境調査【内閣府 H29.11】による。

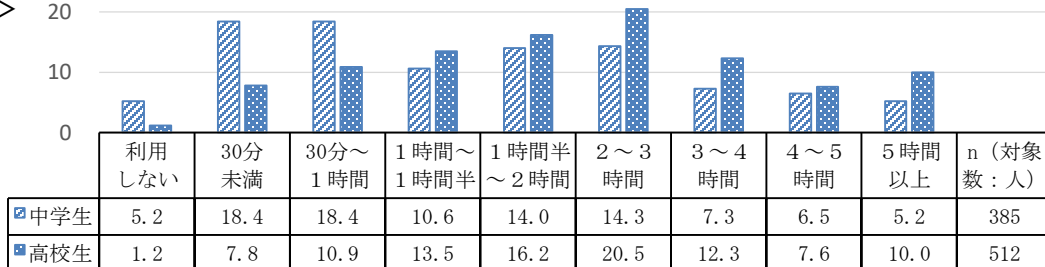
③ 「所属する部活動」別に見た、平均1日当たりのスマホ等の利用時間別割合(%)

<中学生・高校生全員が対象>

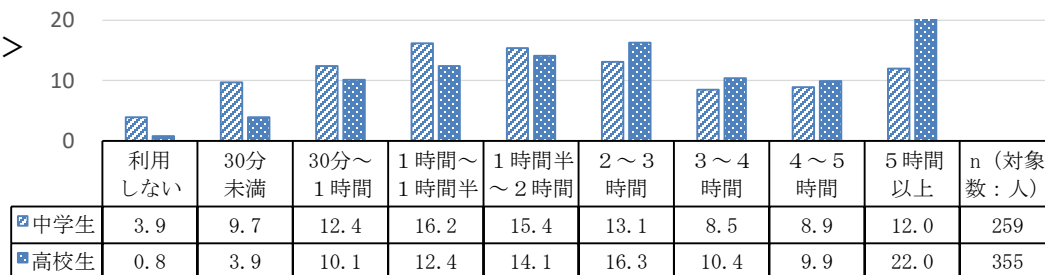
<運動部>



<文化部>



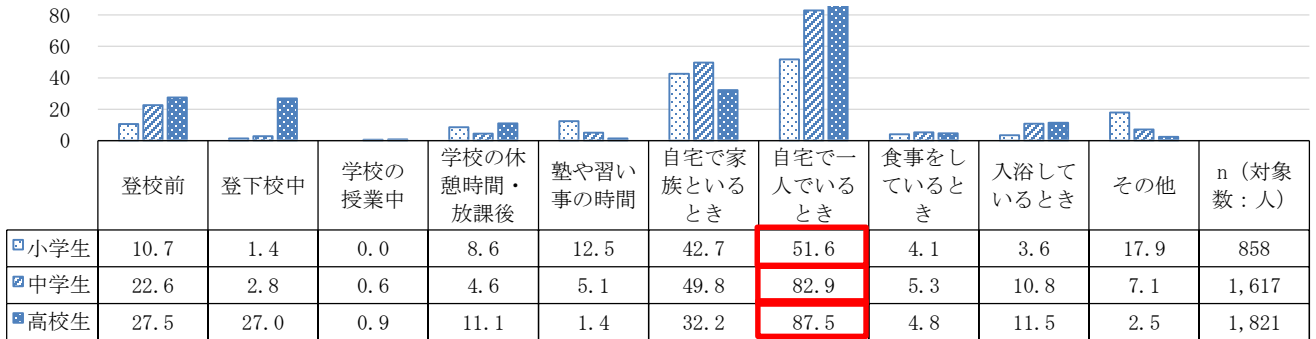
<所属なし>



スマホ等をよく利用するのはどんな時か 【複数回答】

◆ スマホ等の利用時間帯別割合(%) <自分専用のスマホ・携帯を持っている児童生徒の回答>

※ 太枠は、最も高い割合を示した項目を表す。



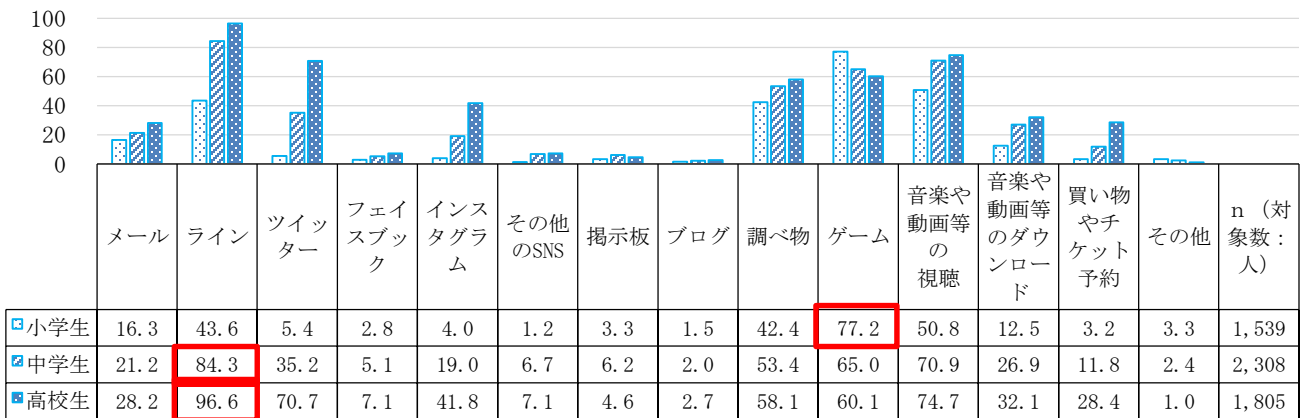
④ ネットやコミュニケーションサービスを利用しているか

◆ 「ネットやコミュニケーションサービスを利用している」と回答した割合(%) <本調査の回答者全員が対象>

	H26	H27	H28	H29	対H26年増減	n (H29対象数:人)
小学生	58.0	57.2	57.7	55.6	-2.4	2,838
中学生	77.2	78.0	78.8	81.4	+4.2	2,942
高校生	95.8	95.3	95.5	95.9	+0.1	1,917

◆ サービス形態別の利用率(%)【複数回答】 <ネットやコミュニケーションサービスを利用している児童生徒の回答>

※ 太枠は、最も高い割合を示した項目を表す。

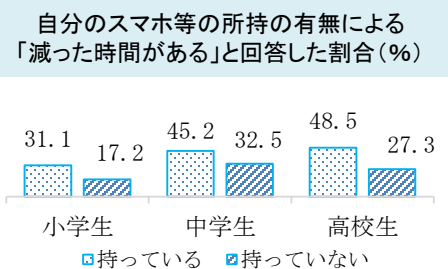


<参考> ネットの利便性に関する項目例「調べ物」の割合(H28) 小:43.5%、中:55.0%、高:58.0%

⑤ スマホ、ネット、ゲーム機などの利用のために日常生活で減った時間があるか

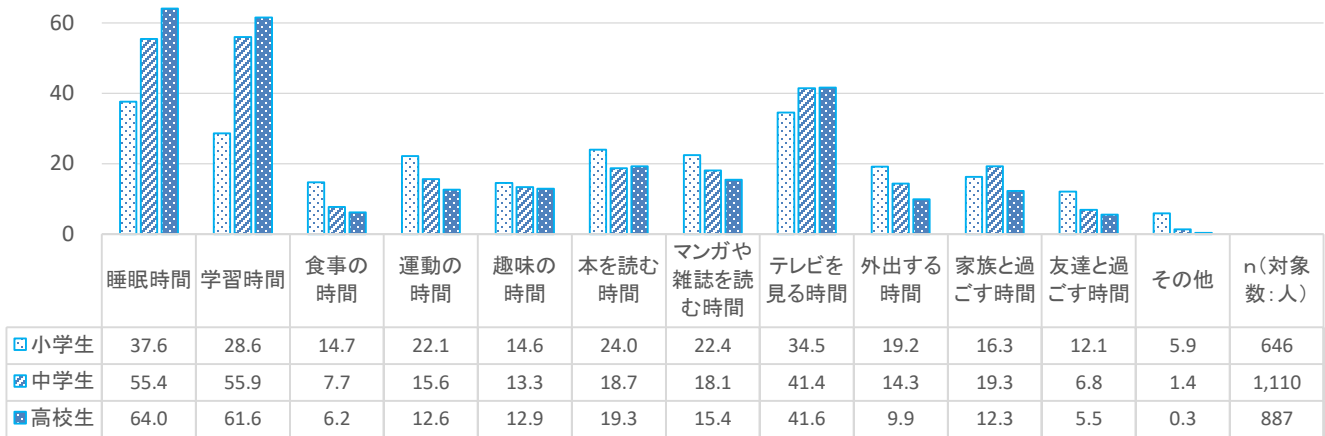
◆ 情報機器端末などの利用のために、「減った時間がある」と回答した割合(%) <本調査の回答者全員が対象>

	H26	H27	H28	H29	対H26年増減	n (H29対象数:人)
小学生	22.5	23.7	23.6	24.2	+1.7	2,838
中学生	33.9	39.1	36.6	40.7	+6.8	2,942
高校生	40.1	43.5	46.5	48.1	+8.0	1,917



◆ 具体的に減った時間(%)【複数回答】

<情報機器端末などの利用のために「減った時間がある」と回答した児童生徒が対象>



- 【小学生】 ①睡眠時間 (37.6) ②テレビを見る時間 (34.5) ③学習時間 (28.6)
- 【中学生】 ①学習時間 (55.9) ②睡眠時間 (55.4) ③テレビを見る時間 (41.4)
- 【高校生】 ①睡眠時間 (64.0) ②学習時間 (61.6) ③テレビを見る時間 (41.6)

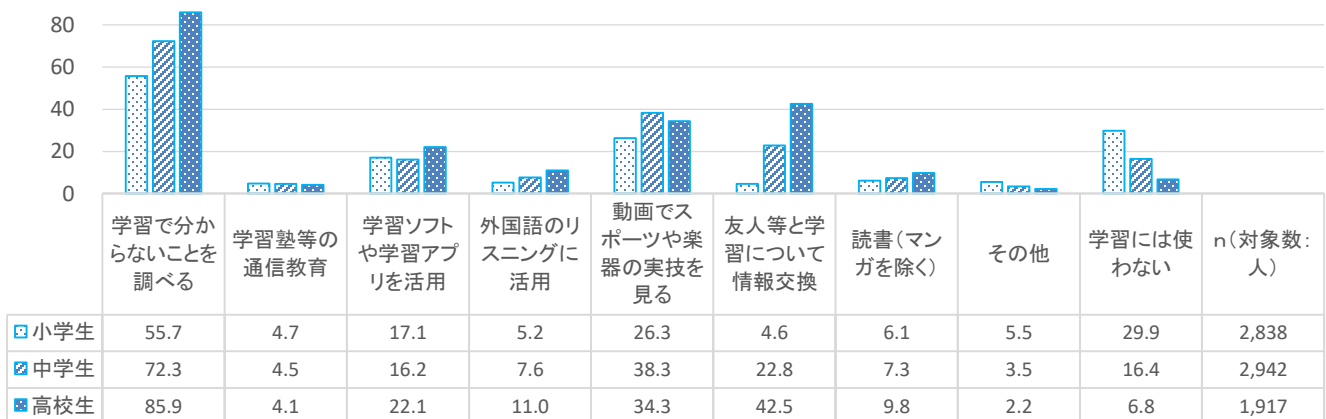
◆ 情報機器端末などの利用のために、「減った時間がある」と回答した利用時間別の割合(%)

<自分専用のスマホ・携帯を持っている児童生徒の回答>

	小学生					中学生					高校生				
	H26	H27	H28	H29	対H26年増減	H26	H27	H28	H29	対H26年増減	H26	H27	H28	H29	対H26年増減
0～1時間	21.9	22.7	23.3	21.5	-0.4	31.7	33.8	33.6	34.0	+2.3	32.2	32.4	40.4	37.7	+5.5
1～3時間	34.2	35.7	38.9	38.7	+4.5	40.0	42.6	40.4	45.9	+5.9	42.5	44.9	51.1	50.1	+7.6
3時間以上	37.0	47.4	49.5	48.0	+11.0	41.7	58.6	47.5	56.0	+14.3	43.3	51.3	46.2	51.7	+8.4

⑥ 情報機器端末をどのように学習活動(習い事や部活を含む。)に活用しているか。【複数回答】

<本調査の対象者全員が回答>

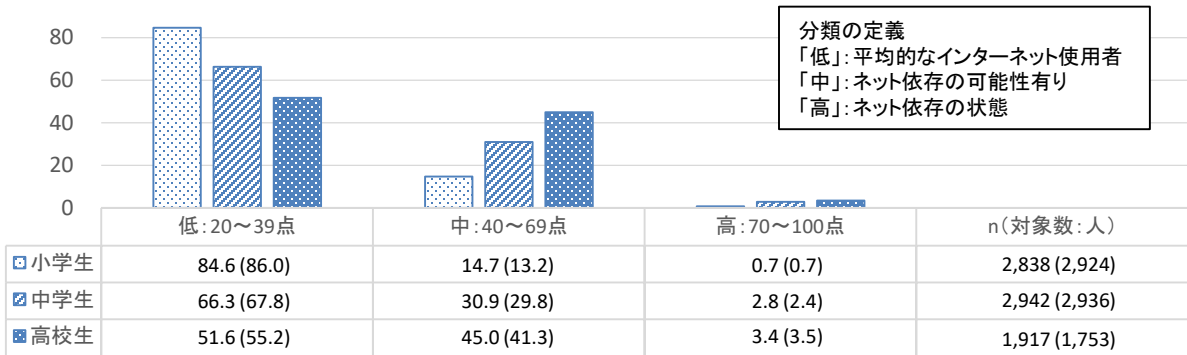


※ 学習活動に活用すると答えた割合 小:70.1%、中:83.6%、高:93.2%

⑦ ネット依存の傾向はどのようになっているか

◆ ネット依存の傾向別に見た児童生徒の割合(%)

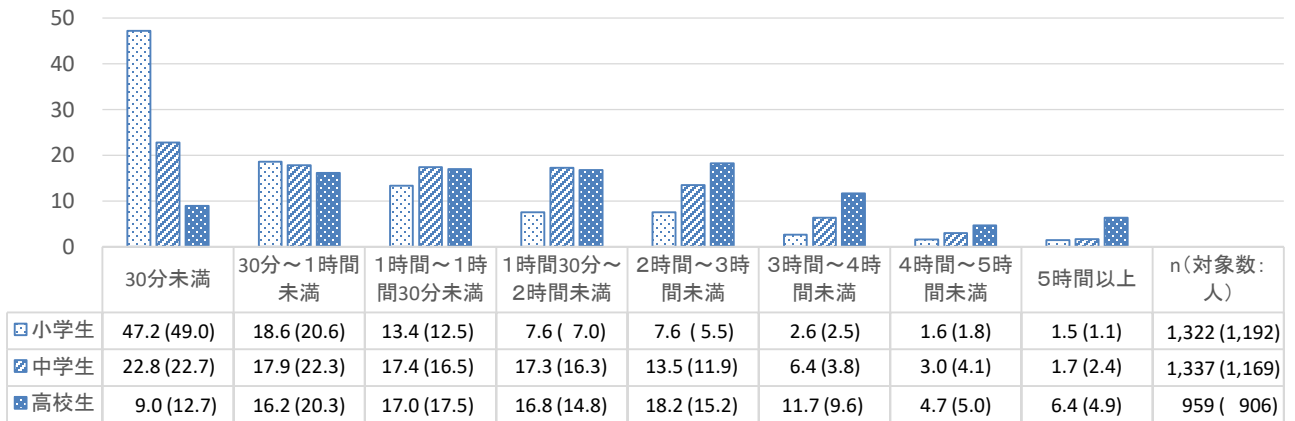
※ ネット依存傾向の調査項目の合計による判定(低:20~39点、中:40~69点、高:70~100点)



※ ()内はH28

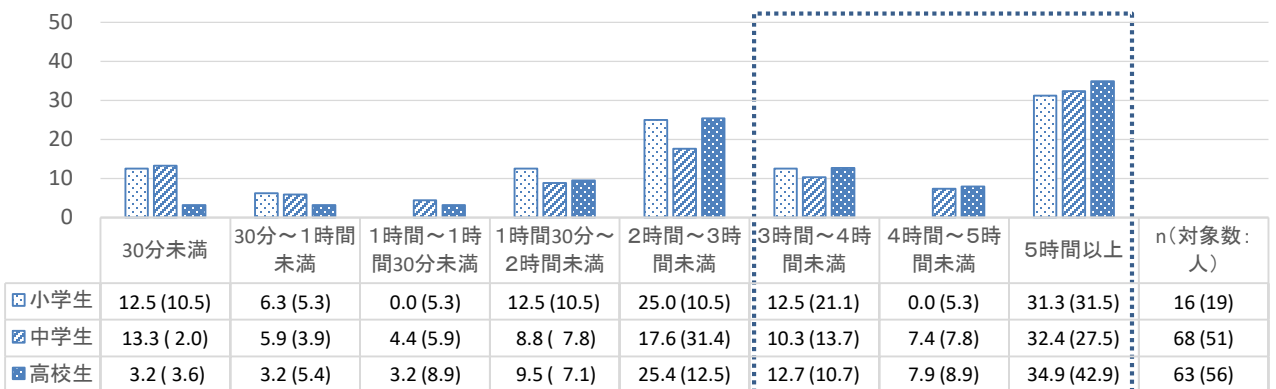
◆ 依存傾向別に見た、スマホ等の利用時間別割合(%)

「依存傾向(低)」



※ ()内はH28

「依存傾向(高)」



※ ()内はH28

【参考】 ネット依存の定義等

- ネット依存とは、アルコール、薬物、ギャンブル等に対する依存症と同じように、インターネットを使用せずにはいられなくなる病的な状態を指す。
- ネット依存の傾向を計る手法としては、アメリカのピッツバーグ大学キンバリー・ヤング准教授が提唱した20項目、簡易版の8項目が代表的な手法である。

【本調査で使用したネット依存傾向を測定する項目】

- 1 気がつくと、思っていたより長い時間、ネット等を利用していることがある。
- 2 長い時間ネット等を利用していたために、家の手伝いや役割をおろそかにすることがある。
- 3 家族や友だちと過ごすよりも、ネット等の利用を優先したいと思うことがある。
- 4 ネット等を介して、新しく知り合い(友人を含む)を作ることがある。
- 5 まわりの人から、ネット等の利用時間や回数について注意されたことがある。
- 6 ネット等をしている時間が長く、学校の成績に影響することがある。
- 7 ネット等への関わりが原因で、勉強の能率に悪影響が出ることがある。
- 8 他にやらなければならないことがあっても、まず先に、LINE(ライン)やTwitter(ツイッター)、Facebook(フェイスブック)、メールなどをチェックすることがある。
- 9 人に、ネット等で何をしているのか聞かれたとき、いいわけをしたり、隠そうとしたりすることがある。
- 10 日々の生活の問題から気をそらすために、ネット等で時間を過ごすことがある。
- 11 気がつけば、また次のネット等の利用を、楽しみにしていることがある。
- 12 ネット等のない生活は、退屈で、むなしく、わびしいだろうと不安に思うことがある。
- 13 ネット等を利用している最中に誰かに邪魔をされると、いらいらしたり、怒ったり、言い返したりすることがある。
- 14 夜遅くまでネット等に関わるのが原因で、睡眠時間が短くなっている。
- 15 ネット等をしていないときでも、ネット等のことを考えてぼんやりしたり、ネット等をしているところを空想したりすることがある。
- 16 ネット等をしているとき「あと数分だけ」と自分で言い訳していることがある。
- 17 ネット等をする時間や頻度を減らそうとしても、できないことがある。
- 18 ネット等をしている時間や回数を、人に隠そうとすることがある。
- 19 誰かと外出するより、ネット等を利用することを選ぶことがある。
- 20 ネット等をしている時は何ともないが、ネット等をしていない時はいらいらしたり、憂鬱な気持ちになったりする。

※アンケート項目の尺度

「いつもある(5点)」「よくある(4点)」「時々ある(3点)」「まれにある(2点)」「全くない(1点)」の中から選択し、それぞれの得点を合計し算出する。20項目に回答するため、最低20点、最高100点となる。

※ネット依存傾向の判断基準 「低」20～39点 「中」40～69点 「高」70～100点

(独立行政法人国立病院機構久里浜医療センター資料等より)

(2) スマホやネットなどを介したいじめやトラブルについて

〈概要〉

①「嫌な経験をしたことがある」割合

スマホ、ネット、コミュニケーションサービスを利用して、「嫌な経験をしたことがある」と答えた割合は、小学生7.7%、中学生21.2%、高校生18.2%であり、平成26年度と比べて、中学生が増加している。※中は「チェーンメールを送られた」、小・高は「書き込んだ内容がうまく伝わらず誤解された」が最も多い。

②「悩みや不安を感じている」割合

ネットやコミュニケーションサービスを利用することで、「悩みや不安を感じることもある」と答えた割合は、小学生6.9%、中学生17.6%、高校生17.0%であり、平成26年度と比べて、小学生と高校生で減少している。※小は「友だちとのやりとりをなかなか終わらせられない」、中・高は「自分の書き込みがあれでよかったかなどと後で悩む」が最も多い。

③フィルタリングの設定率

「フィルタリングを設定している」と答えた割合は、平成26年度と比べて、すべての校種で減少しているが、「分からない」と答えた割合が増加しており、児童生徒がフィルタリングについて認識していない場合も多いと考えられる。

④画像のやりとりの経験率

面識のない人との間で画像のやりとりを行った経験のある割合が、小学校で1.2%、中学校で4.2%、高校生で6.5%であり、すべての校種で昨年より減少している。

① ネット利用によって、嫌な経験をしたことがあるか

◆「ネットやコミュニケーションサービスを利用して、嫌な経験をしたことがある」と回答した割合(%)

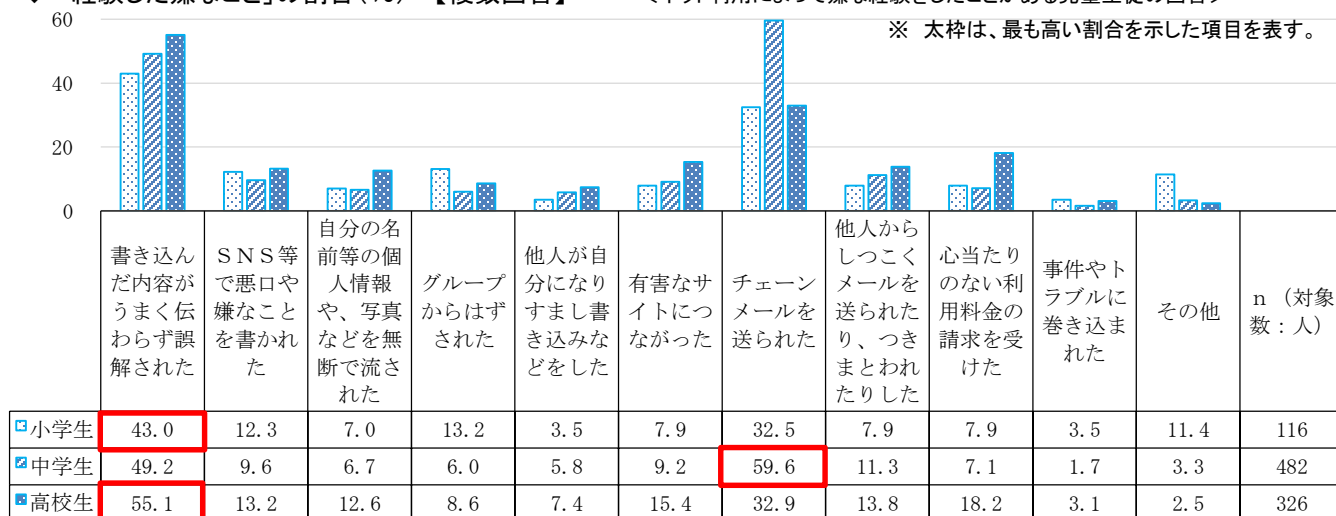
＜ネットやコミュニケーションサービスを利用している児童生徒の回答＞

	H26	H27	H28	H29	対H26年増減	n (H29対象数：人)
小学生	8.0	7.6	9.5	7.7	-0.3	1,539
中学生	15.9	19.3	21.5	21.2	+5.3	2,308
高校生	18.3	17.8	17.1	18.2	-0.1	1,805

◆「経験した嫌なこと」の割合(%) 【複数回答】

＜ネット利用によって嫌な経験をしたことがある児童生徒の回答＞

※ 太枠は、最も高い割合を示した項目を表す。



② ネット利用によって、悩みや不安を感じたことがあるか

◆ 「ネットやコミュニケーションサービスを利用して、悩みや不安を感じることがある」と回答した割合(%)

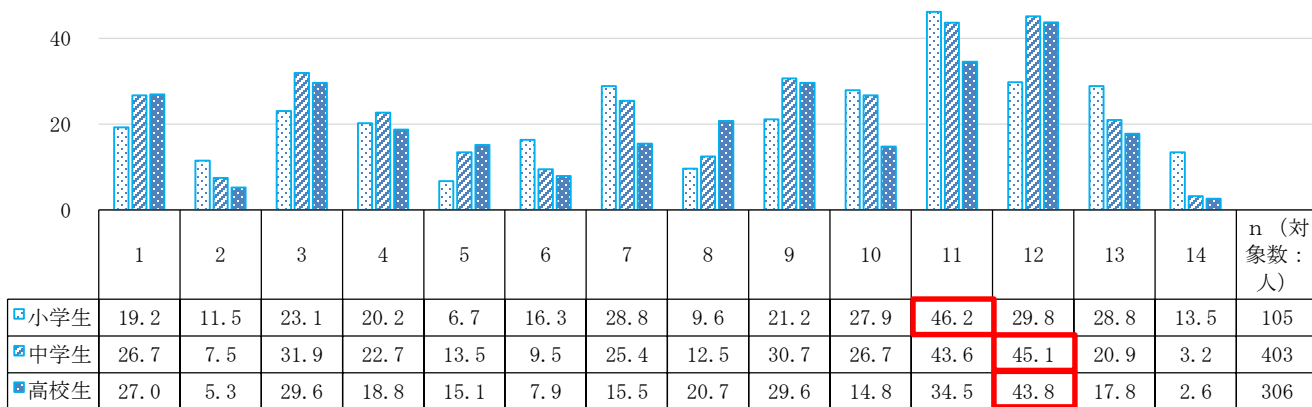
＜ネットやコミュニケーションサービスを利用している児童生徒の回答＞

	H26	H27	H28	H29	対H26年増減	n (H29対象数 : 人)
小学生	9.4	8.3	8.3	6.9	-2.5	1,539
中学生	17.1	17.8	17.5	17.6	+0.5	2,308
高校生	21.7	17.6	18.5	17.0	-4.7	1,805

◆ 具体的な悩みや不安の内容別の割合(%) 【複数回答】

＜ネットやコミュニケーションサービスを利用して、悩みや不安を感じることがある児童生徒の回答＞

※ 太枠は、最も高い割合を示した項目を表す。



1 利用しているコミュニケーションサービス内の人間関係

3 友だちのメッセージをチェックすること

5 他人の個人情報やプライベートなことをどこまで書いてよいか悩む

7 見ていない間に自分の悪口が書かれていないか心配になる

9 メッセージを読んだことがわかる機能(既読チェックなど)があること

11 友だちとのやりとりをなかなか終わらせられないこと

13 自分の書いたメッセージに反応がないこと

2 ひんぱんにメッセージを投稿しなければいけないような気がする

4 自分の個人情報やプライベートなことをどこまで書いてよいか悩む

6 悪意のあるコメントや荒らしがくること

8 知りたくもないのに人の行動がわかってしまうこと

10 メッセージがきたらすぐに返事を書かなければいけないこと

12 自分の書き込みがあれでよかったかなどと後で悩む

14 その他

③ フィルタリングを設定しているか

◆ フィルタリングの設定に関する児童生徒の割合(%)

＜自分専用のスマホ・携帯を持っている児童生徒の回答＞

	設定している				設定していない				わからない				n (H29対象数 : 人)
	H26	H27	H28	H29	H26	H27	H28	H29	H26	H27	H28	H29	
小学生	48.6	44.7	39.9	40.2	9.5	11.1	10.7	9.5	41.8	44.3	49.3	50.4	856
中学生	39.5	39.2	39.6	36.8	15.7	15.5	13.0	14.0	44.8	45.4	47.4	49.1	1,616
高校生	42.0	42.9	46.0	41.8	30.4	23.2	21.5	21.8	27.5	33.9	32.6	36.3	1,824

※ 「設定している」には、「ネットは使えない機種・設定」と回答した児童生徒を含む

＜参考1＞保護者の意識は？

内閣府の「青少年のインターネット利用環境実態調査(平成29年11~12月実施)」の結果によると、フィルタリングの利用に関する保護者の回答結果は、右の表の様になっている。

	小	中	高	総数
フィルタリングを使っている	27.2	47.4	45.8	44.0

＜参考2＞販売店調査について

青少年(18歳未満)が使用するスマートフォン等に係る契約時のフィルタリング利用状況調査結果

フィルタリング利用率	59.9
------------	------

(平成30年1月実施 県男女共同参画青少年課調べ)

④ スマホ等で撮影した画像のやりとりをしたことがあるか

◆「スマホ等で自分で撮影した画像(写真・動画)のやりとりをしたことがある」と回答した割合(%)

＜ネットやコミュニケーションサービスを利用している児童生徒の回答＞

		小学生	中学生	高校生	
同じ学校の友達との間で	あ る	画像を送るよう言われて送った	12.9	45.6	58.5
		画像を送るよう言われなくても送った	8.7	12.0	21.6
		計 ()内は前年	21.6 (24.6)	57.6 (68.5)	80.1 (88.1)
	な い	画像を送るよう言われたが送っていない	2.5	4.3	2.4
		画像を送るよう言われたことも送ったこともない	76.0	38.1	17.5
		計 ()内は前年	78.5(75.4)	42.4(31.5)	19.9(11.9)
違う学校の人との間で	あ る	画像を送るよう言われて送った	5.4	16.4	35.5
		画像を送るよう言われなくても送った	3.1	4.5	13.0
		計 ()内は前年	8.5(11.0)	20.9(33.1)	48.5(63.0)
	な い	画像を送るよう言われたが送っていない	2.2	5.5	4.5
		画像を送るよう言われたことも送ったこともない	89.2	73.6	47.1
		計 ()内は前年	91.4(89.0)	79.1(66.9)	51.6(37.0)
知らない人との間で	あ る	画像を送るよう言われて送った	0.6	3.0	4.1
		画像を送るよう言われなくても送った	0.6	1.2	2.4
		計 ()内は前年	1.2(3.0)	4.2(8.5)	6.5(12.4)
	な い	画像を送るよう言われたが送っていない	0.8	3.5	4.4
		画像を送るよう言われたことも送ったこともない	43.7	35.7	33.4
		知らない人とは連絡を取らない	54.3	56.6	55.8
		計 ()内は前年	98.8(97.0)	95.8(91.5)	93.6(87.6)
	n(H29対象数:人)		1,539	2,308	1,805

(3) スマホなどの利用に関する家庭のルールや、ネットの危険性などに関する学習について

〈 概要 〉

① 夜間利用制限の状況

スマホ、ネット、ゲーム機などの利用について、「●時以降は使用しない」というルールを決めたり、ルールではないが自分で使わないよう決めている児童生徒の割合は、小学生75.0%、中学生55.3%、高校生19.7%であり、平成26年度と比べて、すべての校種で増加している。

② 家庭のルールの有無

スマホなどの利用に関する家庭のルールが「ある」と答えた割合は、小学生60.5%、中学生50.9%、高校生22.4%であり、平成26年度と比べて、すべての校種で増加している。

③ 家庭のルールの内容

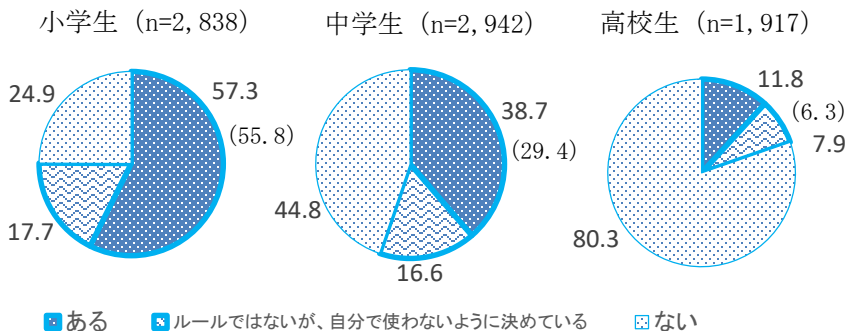
「家庭のルールがある」と答えた児童生徒のうち、そのルールについては、すべての校種で「使う時間」、「知らない人からのメール等に返信しない」、「他人が傷つくような書き込み等はしない」が多い。

④ 危険性等の学習の状況

スマホやネットなどの危険性について、「教えてもらったり、学んだことがある」と答えた割合は、小学生82.2%、中学生92.3%、高校生93.8%である。平成26年度と比べて、すべての校種で増加して、「学校で学んだ」とする割合も増加している。

① 夜間の利用制限に関するルールを決めているか

◆ 「●時以降は使用しない」というルールの有無に関する回答の割合(%)
 <本調査の回答者全員が対象>



〈参考〉全国の児童生徒の状況は？

内閣府公表の「青少年のインターネット利用環境実態調査」(平成29年11~12月実施)の結果によると、インターネットの使い方のルールについて、「利用する時間を決めている」と回答した児童生徒は、学校種別が上がるほど少なくなっている。

	小学生 (10歳~)	中学生	高校生
利用する時間を決めている	48.8	35.2	15.3

(%)

() 内はH26結果

② スマホなどの利用に関して家庭のルールが設定されているか

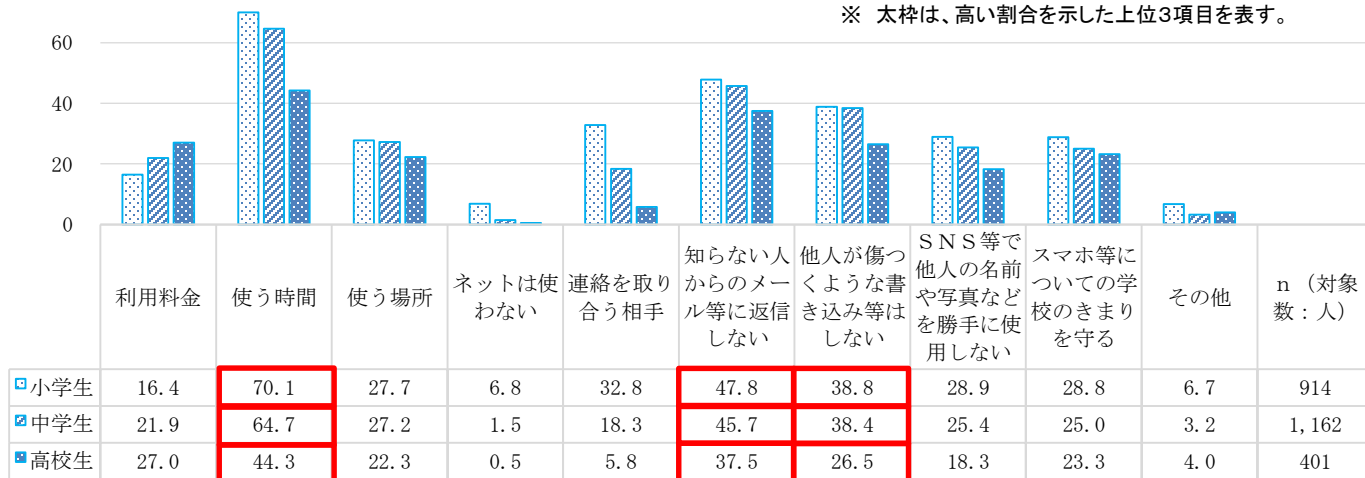
◆ 家庭のルールの有無に関する回答の割合(%) <ネットやコミュニケーションサービスを利用している児童生徒の回答>

	ある					ない					n(H29対象数:人)
	H26	H27	H28	H29	対H26年増減	H26	H27	H28	H29	対H26年増減	
小学生	54.8	56.2	60.0	60.5	+5.7	45.2	43.8	40.0	39.5	-5.7	1,539
中学生	39.8	47.5	47.1	50.9	+11.1	60.2	52.5	52.9	49.1	-11.1	2,308
高校生	13.4	17.2	20.4	22.4	+9.0	86.6	82.8	79.6	77.6	-9.0	1,805

③ どのようなルールを決めているか【複数回答】

◆ 家庭のルールに関する回答の割合(%) <スマホなどの利用に関して家庭のルールが設定されている児童生徒が回答>

※ 太枠は、高い割合を示した上位3項目を表す。



④ スマホやネットの危険性について、「教えてもらったり、学んだりしたことがある」と答えた割合(%)

◆ スマホやネットの危険性について、「教えてもらったり、学んだりした」経験の有無に関する回答の割合(%)

<本調査の回答者全員が対象>

	ある					ない					不明					n(H29対象数:人)
	H26	H27	H28	H29	対H26年増減	H26	H27	H28	H29	対H26年増減	H26	H27	H28	H29	対H26年増減	
小学生	79.1	81.5	81.8	82.2	+3.1	13.6	11.9	12.6	12.5	-1.1	7.3	6.6	5.6	9.2	+1.9	2,838
中学生	88.1	89.7	90.4	92.3	+4.2	5.7	4.6	5.4	3.8	-1.9	6.2	5.7	4.2	3.8	-2.4	2,942
高校生	91.2	92.9	93.8	93.8	+2.6	4.4	3.2	3.0	3.0	-1.4	4.4	4.0	3.2	3.2	-1.2	1,917

◆ スマホやネットの危険性について、どこで学んだり、誰に教えてもらったりしたかの回答割合(%)【複数回答】

<スマホやネットの危険性について、教えてもらったり、学んだりした経験のある児童生徒の回答>

	学校で					保護者に					販売店で					n(H29対象数:人)
	H26	H27	H28	H29	対H26年増減	H26	H27	H28	H29	対H26年増減	H26	H27	H28	H29	対H26年増減	
小学生	61.3	74.7	76.9	76.3	+15.0	60.1	56.8	52.6	52.9	-7.2	4.5	4.2	3.9	4.0	-0.5	2,233
中学生	91.6	93.2	95.4	96.1	+4.5	34.8	39.7	34.0	36.3	+1.5	5.2	6.3	6.1	6.6	+1.4	2,567
高校生	95.3	97.5	97.5	97.8	+2.5	15.6	21.2	18.9	19.9	+4.3	8.5	8.7	7.1	8.0	-0.5	1,741

(4) 成果・課題と今後の対策

<これまでの取組>

県のスマホ等の夜間使用制限の提唱や、スマホ・ネット問題総合対策により、学校やPTA、市町村教委が積極的に児童生徒の主体的な活動や保護者啓発などの取組を進めてきている。

① 児童生徒の主体的な取組の促進

・「スマホサミット2017」における、ネットの適正利用等に係る協議等の推進

(H29実績) 参加校：中学校24校、高等学校11校

・コンクールで公募した啓発動画をYouTube「晴れの国岡山チャンネル」で公開

② 児童生徒への情報モラル教育の更なる充実

・校内における指導の中核となる教員の養成研修を実施(H27～H29の3年間で全市町村実施)

・校内研修プレゼン用資料の作成と各校への提供

③ 家庭や地域への啓発活動の充実

・保護者啓発の中核となる「子ども安全安心ネットサポーター」の養成

(H29実績) 養成サポーター数99名

・保護者会等でネットサポーターを活用したルールづくりに関するワークショップ等の実施

(H29実績) 実施回数87回

・家庭でのルールづくりやフィルタリング設定等のチラシを作成し、毎学期、保護者懇談会等で直接配付

・「Stop! スマホ Start! スタディ!」の取組を開始し、リーフレットの全中学生への配布やPTAへの働きかけを実施

④ ネット依存に関する研究

・学校・家庭で活用できる「ネット依存防止マニュアル」を作成し、各校へ配布及び県HPに掲載

<主な成果>

◆「スマホ等情報機器端末を学習等で利用する」と回答した割合は、全ての校種で高い比率を占めており、有効利用についても浸透している状況が見られる。

<小学校> 70.1% <中学校> 83.6% <高校> 93.2%

◆「知らない人に画像を送ったことがある」と回答した割合は、昨年度と比較してすべての校種で減少した。

<小学校> ㉘ 3.0 → ㉙ 1.2 <中学校> ㉘ 8.5 → ㉙ 4.2 <高校> ㉘ 12.4 → ㉙ 6.5

◆「スマホなどの利用に関して家庭のルールがある」と回答した割合は、平成26年度と比べ、すべての校種で増加した。

<小学校> ㉖ 54.8 → ㉙ 60.5% <中学校> ㉖ 39.8 → ㉙ 50.9% <高校> ㉖ 13.4 → ㉙ 22.4%

◆「スマホやネットの危険性について教えてもらったり、学んだりしたことがある」と回答した割合は、平成26年度と比べ、すべての校種で増加した。「学校で学んだ」とする割合も増加した。

※ スマホやネットの危険性について、「学校で学んだ」と回答した割合

<小学校> ㉖ 61.3 → ㉙ 76.3% <中学校> ㉖ 91.6 → ㉙ 96.1% <高校> ㉖ 95.3 → ㉙ 97.8%

<主な課題と対策>

● 課題

- ① 長時間利用が小・中学校で増加傾向
→ 対策【a】【b】【c】【e】
- ② 家庭におけるルールづくりのさらなる促進
→ 対策【b】【c】【f】【g】
- ③ フィルタリングの設定についての認識不足
→ 対策【c】【f】【g】【h】
- ④ 面識のない人と画像のやりとりをした経験があると答えた児童生徒が依然として存在
→ 対策【d】【f】
- ⑤ インターネット等の利便性を活かした正しい使い方の促進
→ 対策【d】【f】

● 対策

- 【a】「スマホサミット2018」に小学生部会を新設し、地域サミットや各校の取組の活性化など、児童生徒の主体的な取組を更に推進
- 【b】平成29年12月から取り組んでいる「Stop！スマホ Start！スタディ！」リーフレットの学校への追加配付や取組の徹底
- 【c】「スマホサミット2018」に保護者部会を新設し、フィルタリングの必要性や長時間利用の問題点等について協議・発信
- 【d】昨年度まで各地域に養成した情報モラル教育推進リーダー等を活用し、系統的な情報モラル教育を推進（インターネットの有効利用に関する指導を含む）
- 【e】昨年度作成したネット依存チェックシートなど、ネット依存防止マニュアルを活用した実態把握と医療機関と連携したサポートの実施
- 【f】情報モラル啓発資料の配付と活用促進、保護者懇談等での啓発チラシの直接配布の取組の継続
- 【g】親育ち応援学習プログラムによるワークショップや、養成した各地の子ども安全安心ネットサポーター等を活用したPTA研修会や就学前研修会の充実
- 【h】フィルタリングの必要性について親子で学べるチラシを販売店に配布し、契約時の待ち時間に利用してもらうなど、販売事業者と連携した、購入段階での対策の強化

スマホ・ネット問題総合対策の推進

子どもをめぐるスマホ・ネット問題とは

- * 長時間ゲームをするなどのネット依存
- * 誹謗中傷やいじめにつながる仲間外しなどのネット上の人権侵害
- * 課金、犯罪被害に遭うなどのネットトラブル

背景は

- * いつでもどこでも簡単にネットに接続できる環境
- * 児童生徒のスマホ等の所持率の増加
- * 情報メディアの活用に関する知識・技術の不十分さ
- * 情報社会のルールやマナー習得の不十分さ
- * 保護者、大人の知識・技術、危機意識の低さ 等



現状と取組の目標

○スマホ等の使用時間制限に関する取組の促進 (スマホ、ゲーム等を平日3時間以上利用する割合)

H26実績	小(15.8%)	H29実績	小(17.3%)	H30目標値	小(5%)
	中(25.0%)		中(25.1%)		中(10%)
	高(39.0%)		高(36.3%)		高(15%)



○家庭でのルールづくりの促進 (家庭でのルールがあると答えた割合)

H26実績	小(54.8%)	H29実績	小(60.5%)	H30目標値	小(75%)
	中(39.8%)		中(50.9%)		中(70%)
	高(13.4%)		高(22.4%)		高(60%)

○フィルタリング設定に関する取組の促進 (フィルタリングの設定率)

H26実績	小(48.6%)	H29実績	小(40.2%)	H30目標値	小(85%)
	中(39.5%)		中(36.8%)		中(80%)
	高(42.0%)		高(41.8%)		高(70%)

学校

児童生徒の主体的な活動の促進

継続・成果普及

【教育委員会】

- 『OKAYAMAスマホサミット2018』の開催
 - ・ 小学校部会、中学校部会、高校部会の開催による発達段階に応じた取組の活性化
 - ・ 保護者部会を新たに開催し、家庭でのルールづくりに向けた啓発活動について協議
 - ・ 成果報告会(10月)の開催 ※教職員・保護者対象

継続・成果普及

ネット依存への対策

- ネット依存の未然防止や早期対応 【教育委員会】
 - ・ 「ネット依存チェックシート」の周知と活用方法の研修
 - ・ ネット依存に関するリーフレットの作成・配付による啓発

継続

実態把握に基づく対応の推進

【教育委員会】

- スマートフォン等の利用に関する実態調査
 - ・ 児童生徒の利用実態に関する調査を継続し、取組全体の効果検証と課題を把握し、指導に活用

家庭・地域等

家庭・地域等への啓発活動の促進

継続・強化

【教育委員会】

- P T A 研修会の充実
 - ・ ロールプレイングの取り入れや、ネットサポーターの積極的な派遣により、家庭でのルールづくりを促進
- 優良実践 P T A の取組を普及
 - ・ スマホ・ネット問題で成果を上げているPTAの好事例を収集し、県内に普及
- 就学前の保護者研修の充実
 - ・ 親育ち応援学習プログラムの活用を促進
 - ・ ネットサポーターの派遣を積極的に推進
 - ・ 入学説明会や検診の機会を活用し早期啓発を強化
- 地域住民等への啓発活動の推進
 - ・ 学校支援地域本部等と連携した研究機会の充実
 - ・ 学校通信等を活用した啓発活動を推進
 - ・ 家庭教育企業出前講座の取組を推進

連携

継続

関係機関等と連携した対応

- 『スマホ・ネット問題解決タスクフォース』
 - ・ 携帯電話事業者も参画した官民一体のフィルタリング設定促進等の取組 【男女共同参画青少年課】
- 『インターネットモラル教室』 【県警本部少年課】
- ネットパトロール 【教育委員会】

研究成果の反映

継続・強化

ネット上のいじめ・トラブルの研究

- S T O P i t の試行・効果検証 【教育委員会】
 - ・ スマホ等を介して匿名で学校にいじめを報告・相談するシステムをモデル校(県立5校)に導入し、外から見えにくいいじめ等の早期認知・早期対応の効果を検証

学校と家庭・地域が連携し、子どもを守る体制の構築